



6月13日（木）、初声小学校4年生が、長浜海岸でビーチコーミングを行いました。講師は、三浦YMC Aグローバル・エコ・ヴィレッジの植松さんでした。

最初に、学校で、スライドショーによる説明がありました。きれいな海の写真のあと、海のゴミの様子の写真、動物がプラスチックゴミで苦しんでいる写真を見ていきました。

児童に、「どうして海が汚れてしまったのか」考えて、意見を発表してもらいました。「みんなが、少しごらい捨ててもいいと思っているから」など、鋭い意見が出ました。「ごみが川から海に流れ込む」ことに気付いた児童もいました。



その後、長浜海岸へ向かいました。到着後、一斉にごみを集め始めました。ペ



ットボトルのゴミは意外に少なく、鉄などの大きなゴミが沢山ありました。きれいなシーグラスを見つけて喜ぶ子どもたちもいました。

集めたゴミは分別して、ブルーシートに並べていきました。

最後に、植松さんから、「海のゴミを減らすためにできることを考えてください」という宿題をもらって、帰路につきました。

児童のアンケートより



- ・どうして、ゴミがいっぱい落ちているのか、疑問に思った
- ・シーグラスが、波の強さで丸くなるなんて、不思議だと思う
- ・ゴミ拾いで、グループで活動するのが楽しかった
- ・海がきれいになってうれしかった
- ・海はゴミ箱でもないのに…
- ・ゴミ拾いがとても楽しくて、暑いのを忘れて、拾いまくった
- ・世界では、プラゴミの問題が起きているんだと分かった
- ・ゴミを拾いながらもいろいろ学べたし、すごく楽しかったので、もう1回ビーチコーミングをしたい
- ・海がきれいになると、すごくいい気分になった
- ・海にゴミがあることで、海の生き物に影響があることを知った
- ・今度海に行くときは、ゴミがあればなるべく拾いたい
- ・みんなまじめにゴミを拾っていたし、「これはプラゴミだよ」とか教えてくれたし、色々なことを教えてくれたので、笑顔で帰れた
- ・これからはゴミを捨ててほしくないな～と思った
- ・海の生き物たちは、人間のせいで苦しんでいるんだなと思った
- ・私は、またゴミを拾いたいなと思った/海がきれいになるとほかの人も自分も気持ちがいいから
- ・私たちが、海を守るということを大切にすればいいと思った
- ・ゴミを多く取れた/それだけ自分たちががんばったということだ
- ・ポイ捨てをしている人がいたら、注意するようする



裏面へ続く

- ・魚が、ごみを食べて死んだりするから、絶対にポイ捨てをしないように気を付けようと、心の中で思った
- ・きれいな海にするためには、どうすればよいか、を日常的に考えたいと思った

お願い 本研究所では、海洋教育写真コンテストを実施するためのクラウドファンディング（インターネット上の募金）を行っています。このコンテストを実施するために、皆さんのご協力が必要です。3000円から参加できます。リターン（お礼の品物）もあります



ご協力いただける方は、本研究所（854-9443）にご連絡ください。すぐに対応いたします。締め切り（6月28日）が迫っています。クラウドファンディングの内容を知りたい方は、右のQRコード、もしくは次のURL（<https://readyfor.jp/projects/umishakon31>）からアクセスできます。

（文責 事務局長 渋谷）

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所854-9443まで